

親子関係における養育態度の世代間伝達に関する研究  
～向社会性の形成に焦点をあてて～

人間教育専攻  
幼年発達支援コース  
倉成 正宗

指導教員 浜崎 隆司

はじめに

向社会的行動の定義として Eisenberg & Mussen (1991) は「他人あるいは他の人々の集団を助けようとしたり、こうした人々のためになることをしようとする自発的な行為のこと」としている。向社会的行動は様々な要因によって形成されるが、要因の1つである親子関係に注目し、向社会的行動場面における養育態度や向社会的行動は世代間で伝達するのかについて研究を行った。

今までの世代間伝達についての研究では、虐待のようなネガティブな面について焦点が当てられてきた。一方で、向社会的行動のようなポジティブな側面についての研究や向社会的行動場面における養育態度についての研究はあまりなされていない。そこで、向社会的行動についての親の役割の重要性を主体として、向社会的行動と向社会的行動場面における養育態度の世代間伝達に関する研究の必要性が指摘されている。

Fig. 1 は、本研究における伝達についての概念図である。

目的

本研究の目的は、向社会的行動・向社会的場面における養育者の養育態度は世代間伝達するのかということに注目し、養育者の向社会的行動・向社会的場面における養育態度が、子どもに伝達するのかを明らかにすることである。

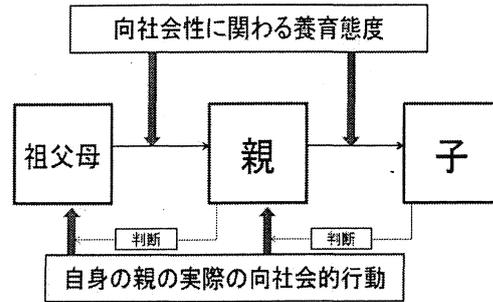


Fig.1 本研究における向社会性の世代間に関する伝達概念図

仮説

1. 祖父母の向社会的な養育態度は親の向社会的な養育態度に伝達するであろう。
2. 祖父母の向社会的な行動は親の向社会的な行動に伝達するであろう。

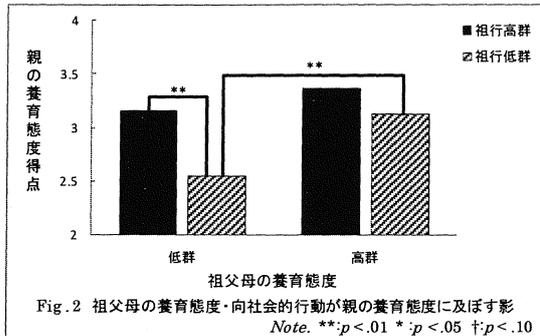
方法

小学校5・6年生の児童とその保護者105組を対象に質問紙調査を行った。小学校5・6年生の児童には、親の向社会的行動場面における行動について評定してもらい、その保護者105組には、祖父母の向社会的行動場面における養育態度と向社会的行動場面における行動について評価してもらった。

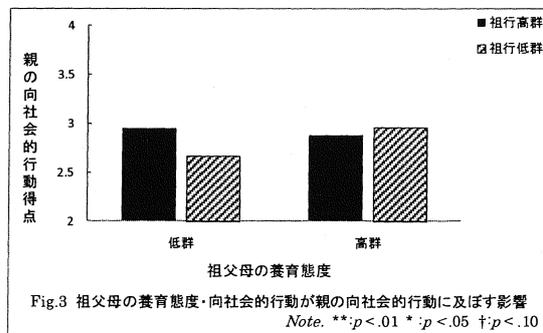
結果

祖父母の養育態度得点と向社会的行動得点をそれぞれ平均値(養育態度:  $A_v=2.63$ , 向社会的行動:  $A_v=3.10$ )を算出し、低群と高群に分類した。次に独立変数を祖父母の養育態度得点(2水準: 低群・高群)と祖父母の向社会的行動(2水準: 低群・高群)、従属変数を親の養育

態度得点として2要因分散分析を実施した。その結果、祖父母からの養育態度の比較的高い親は、祖父母からの養育態度の比較的低い親よりも子どもへの養育態度得点が高く、より子どもに伝えており、世代間伝達が行われているということがわかった。(Fig.2)



次に、独立変数を祖父母の養育態度得点(2水準:低群・高群)と祖父母の向社会的行動(2水準:低群・高群)、従属変数を親の向社会的行動得点として2要因分散分析を実施した。その結果、祖父母の向社会的行動は、親の向社会的行動に影響がない結果となった。(Fig.3)



### 総合考察

祖父母の向社会的な養育は親の向社会的な養育に伝達することが明らかとなったため仮説1が支持された。さらに、祖父母の向社会的行動と養育態度は、親が子どもに養育態度として伝える際には、祖父母の向社会的行動が重要であり、祖父母が向社会的行動を比較的行っていたら、祖父母が養育態度を比較的行っていない場合でも、親は子どもに養育態度を伝達しているとい

う結果となった。養育態度の伝達として注目すべき点は、祖父母が向社会的行動を比較的行っていない場合でも親は子どもに向社会的な養育態度を伝えていた点である。親にとって、祖父母の向社会的行動は良いモデリングとなり次世代への養育態度につながったことが考えられる。祖父母が向社会的行動を比較的行っておらず、養育態度を比較的行っていない場合は、親は子どもに対して養育態度を比較的行っていないため、親は子どものためには養育態度を行う必要がある。しかし、現実的には全ての向社会的行動に対する養育態度として表わすことができないことができないため、実際に親自身は向社会的な行動として示すことが重要であると考えられる。

一方、祖父母の向社会的行動は、親の向社会的行動には伝達していなかったため仮説2は支持されなかった。考えられる原因は、親自身の向社会的行動を小学校5・6年生の子どもが判断したため、親の向社会的行動を子どもが正確に判断することができなかったためと考えられる。

### 今後の課題

今後の課題として2つあげられる。1つ目の課題として、調査対象者の年齢である。親の向社会的行動について、今回の方法で調査するには小学生ではなく大学生以上の年齢が必要であった。小学生は、親の向社会的行動について目に見えた部分についてのみ評価しているように感じたからである。2つ目の課題として、祖父母・親・子どもについての性差、出生順位、きょうだいの有無によって世代間伝達されるのかどうかを調べるために、データの量を増やす事である。